

～宮川典子メモリアル～
政務官同期“ひまわりの種プロジェクト”のご案内

私たちと一緒に青年局・女性局で活動をして参りました宮川典子先生が、今年9月12日、享年40歳の若さでお亡くなりになりました。その日は、奇しくも私たちが政務官に任命される前日の突然のニュースでした。数年間乳がんと闘病をされていたとのことでしたが、その闘病の辛さを決して我々に見せることもなく、地元山梨の課題、教育分野のあらゆる課題、女性の政治参画、外交防衛などの政策課題に余すところなく力を注ぎ、青年局役員・女性局長代理の党務や夏の参議院選挙の応援にも最後までエネルギーをぶつけ、政治活動に邁進してこられました。

今年6月に開催された最後の自民党女性局役員会での発言内容は、女性の健康について「一人で悩まないで」というステッカーを自民党の女性トイレに貼ってほしい、がん検診などを女性の健康についてもっと活動すべきではないかという内容でした。

国立がん研究センターの報告書によると、15～39歳のがん患者の75.9%は女性が占め、部位別では乳がんと子宮頸がんが突出して多くなっています。全世代における年間のがん死亡者数は、乳がんでは約1万4000人、子宮頸がんでは約3000人です。若くして亡くなる女性の多くは、自身のご両親や、自身の夫や子どもなどの家族に看取られ亡くなります。しかし、現在では、乳がんも子宮頸がんも早期発見により5年生存率は乳がんが91.1%、子宮頸がんが73.4%となっています。これらを早期発見に結びつけていくことや、がん治療と仕事などの両立支援をより一層行なって行くことは、政治の大きな役割であると考えます。

この度の政務官就任にあたり、幾つかの省庁に政務官経由で調べてもらいましたところ、各省庁で行われている女性のがん検診についてばらつきがあるようでした。宮川典子先生の山梨の後援会の名前はひまわり会で、ひまわりで埋め尽くされたお別れ会の祭壇には、死亡叙勲で授与された旭日中綬章とともに文科政務官任命の官記がライトに照らされていました。宮川先生の遺志が今後も育っていくようにとの想いを込めて、政務官同期のメモリアルプロジェクトを“ひまわりの種プロジェクト”と命名しました。

それぞれの省庁で働く女性の健康などについて、省庁横断的に取り組めることがないか模索したいと思いますので、まずは添付の調査表を担当部署にお渡しいただき、回答へのご協力を12月25日（水）までお願い申し上げます。アンケート結果は、2月上旬を目処に集計をしたものを皆様に共有いたします。ある一定の方向性が見えるようでしたら、来年6月の政府の骨太などに盛り込み、再来年から省庁で働く女性の検診事業などの充実に寄与できる政策として御提示できるようになれば有難いと思います。ご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

令和元年12月10日

代表呼びかけ人

佐々木紀（第49代青年局長）

自見はなこ（前女性局長代理）